

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スワールキッズ奈良教室		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の適切な共有と実施により、子どもの成長を促進。職員全員が計画を理解し、連携を取りながら支援を行う体制が整っている。	職員間でのミーティングを活用し、支援の質向上に努めている。フィードバックを日々の改善に生かし、個々の児童への適切な対応を強化している。	保護者向けに支援内容や活動の詳細を共有することで、支援の透明性を高める。定期的な説明会の開催や情報提供の充実が求められる。
2	施設の清潔さと快適な環境が高く評価されており、日々の清掃や消毒の徹底が継続されている。利用者が安心して過ごせる環境づくりが強み。	支援計画の職員間での共有を徹底し、情報の伝達漏れを防ぐことで支援の質向上が期待できる。定期的なカンファレンスの実施が有効。	外部の専門家との連携を強化し、支援の専門性を高める。定期的な研修や情報交換の場を設け、最新の支援方法を取り入れることが望ましい。
3	専門性の高い支援の継続的な実施が求められる。職員研修を強化し、最新の支援技術を取り入れることで、支援の質をさらに向上させる。	定期的なアセスメントの実施により、支援の効果を検証し、個別対応を適切に調整。子どもの成長に応じた計画の見直しが必要。	地域機関との連携を深め、より幅広い支援を提供する。学校や医療機関との連携強化を進め、総合的な支援体制を構築する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	短時間授業時の対応が課題。職員数の確保や配置調整を行い、突発的な変動にも柔軟に対応できる体制を整えることが求められている。	職員の負担が大きくなりやすいため、適正な配置が必要。業務の効率化と役割分担を明確にし、支援の質を維持しつつ働きやすい環境を整備する。	保護者会や交流の場が不足しているため、定期的なイベントや情報交換会を企画し、保護者間の意見交換や事業所との連携を深めることが望ましい。
2	保護者会や交流機会が不足しているため、保護者同士のつながりを作る工夫が必要。定期的な座談会や情報交換会の開催が考えられる。また、地域との連携や交流の機会が少なく、社会的な関わりを増やす工夫が必要。放課後児童クラブや他施設との合同イベントの実施が考えられる。	事故発生時の情報伝達が十分でないという意見がある。保護者への迅速かつ詳細な報告体制を整備し、信頼関係の強化を図る。	アプリやSNSを活用し、日々の活動や支援の様子を発信することで、保護者の理解を深め、支援の透明性を向上させる。
3	支援内容の見える化が不足しているため、活動の様子を保護者に積極的に共有し、支援の意図や目的を明確に伝える必要がある。安全計画が保護者に十分に周知されていないため、周知方法の改善が必要。アプリやSNSを活用し、誰でも確認できるようにする。	家族支援プログラムが未整備のため、家族への支援を強化。保護者が安心して子どもを預けられる環境を整えることが求められる。	災害時の対応訓練を定期的に行い、非常時にも迅速に対応できる体制を構築。保護者への情報提供も強化し、安心感を高める。